

第18回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成25年5月31日（金） 18時30分～20時50分

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

3 出席者

- (1) 委 員 20名 *欠席 2名 山崎委員、岡委員（代理出席：植田氏）
- (2) 事務局 6名 *教育委員会企画課 大崎課長、池田統括管理主事、市倉課長補佐、小口主査、安井主査補、望月主査補
- (3) 傍聴者 6名

4 報告・議題

- (1) 平成25年度協議会委員の確認について
- (2) 【報告1】 前回協議会について
- (3) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて
- (4) 【議題1】 千城台地区小学校の適正配置について
- (5) 【議題2】 次回開催日時・場所について
- (6) 【議題3】 その他

5 会議資料

- 資料1：平成25年度千城台地区学校適正配置地元代表協議会委員名簿
- 資料2：第14～17回千城台地区学校適正配置地元代表協議会（概要）
- 資料3：協議の進め方・平成27年4月統合を想定した場合のスケジュール
- 資料4：シミュレーションA（2番）・B（5番）の比較
- 資料5：現行学区での児童数推計
- 資料6：千城台地区の小学校における学区外通学児童の人数
- 資料7：千城台地区小学校に通う児童の居住地区図
- 資料8：「小学校の統合・現行学区での統合シミュレーション（現行の学級編制）」
- 資料9：「小学校の統合・現行学区での統合シミュレーション（35人学級編制）」
- 資料10：中学校の生徒数推計・統合シミュレーション
- 資料11：千城台地区小・中学校の施設概要

6 議事の概要

- (1) 平成25年度協議会委員の確認
「平成25年度千城台地区学校適正配置地元代表協議会委員」について確認・承認され、教育委員会ホームページに公開することとした。
- (2) 【報告1】 前回協議会について
事務局が前回協議会での協議の内容について説明し、確認した。
- (3) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて
事務局が前回協議会以降の動きについて説明した後、各協議会委員から報告を行った。

(4) 【議題1】千城台地区小学校の適正配置について

事務局が「協議の進め方、平成27年4月統合を想定した場合のスケジュール」「シミュレーションA(2番)・B(5番)の比較」「現行学区での児童数推計」「千城台地区の小学校における学区外通学児童の人数」についてを中心に説明を行った後、協議を行った。

その結果、次回も引き続き、27年4月の統合を目指して小学校の統合協議を行うことが確認された。

(5) 【議題2】次回開催日時・場所について

次回協議会は、平成25年7月12日(金)18時30分から20時30分、場所は千城台公民館にて開催することとした。

(6) 【議題3】その他

特に協議事項なし

7 発言要旨

(1) 会長挨拶(氏家会長)

新年度に入り、各団体の役員改選等で再任された方々、新しく選任された方々が一堂に集まり、ただ今、協議会委員として承認された。25年度は、具体的な事項について解決する年となる。今まで協議してきた内容や経緯をきちんと踏まえながら進めていきたい。

「協議会だより第4号」も、第24地区連の全家庭に配布した。小学校の統合シミュレーションにおいて、A案(2番)とB案(5番)に絞ったことを周知しており、地域住民は喫緊の回答を期待している。協議会委員一人一人が、どのように決定したのかを各団体に説明できるまで十分検討していただきたい。本日は25年度の児童推計など新しいデータを踏まえて、今後の方向性を決めていきたいので、よろしく願います。

(2) 教育委員会挨拶(大崎課長)

平成22年2月の第1回協議会から数えて、今回が18回目となり、氏家会長、山崎副会長、菅原副会長には、協議会の運営にお骨折りを頂き、本日を迎えられていることに心から感謝を申し上げます。

委員の方々には、大変お忙しい中、お集まり頂いている。役員改選等で新しく委員になられた方々も含めて、各団体の代表として様々な角度から議論をお願いしたい。

昨年度までの協議では、「小学校については、適正配置が必要であること、小学校の統合シミュレーションを2つに絞るところまで進んでおり、引き続き、中学校の統合協議も含めて話し合うこと」が確認されている。

今年度も、千城台地区の子どもたちの教育環境の整備と教育の質の充実を図るため、真摯な協議をお願いしたい。

(3) 報告

報告 前回協議会およびそれ以降の動きについて

〈山崎議長〉 「前回協議会およびそれ以降の動き」について、事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 「前回の協議」と「それ以降の動き等」に分けて報告する。まず、「前回の協議」については資料2をご覧ください。既に議事要旨が確定されているので、簡単に説明する。

(前回協議された概要)

○事務局が「現行学区でのシミュレーション」のうち、2番と5番の2案について説明し、協議を行った。

○協議の結果、引き続き小学校の統合協議を行うこととし、中学校の統合協議も含めて協議を進めていくことが確認された。

次に、「前回協議会以降の動き」について、以下のように報告する。

○事務局が出向いての説明・意見交換

3月19日(火) 北小の特別支援学級保護者との意見交換会

4月19日(金) 北小PTA対象説明会

4月27日(土) 南中PTA対象説明会

○千城台地区の「協議会だより第4号」

4月21日(日) 第24地区町内自治会連絡協議会定期総会后、各家庭に配布

〈山崎議長〉 ただ今の報告で、質問がある方はお願いします。

〈一同〉 特になし

〈山崎議長〉 次に、前回の協議会以降、各学校PTAや自治会等において、話し合ったり、話題に出たりした内容があれば、簡潔にお願いしたい。

〈植田氏〉 北小では、特別支援学級の保護者から出された意見を報告する。保護者が一番心配していることは、児童の登下校である。現在、遠くから送り迎えを行っているが、高学年ではできるだけ一人で通わせている。統合して統合場所が変わった場合、最初から通学経路に沿って練習することになる。通学の利便性や環境変化への対応を考えると統合場所は北小がよいという意見が多かった。

〈大和久委員〉 特になし。前回協議会で、2番と5番のシミュレーションについて話し合ってくるようになっていたが報告する機会がなかったので、本日報告する。西小としては、概ね小中連携を考えて2番ということになった。5番という意見も少ないが出ている。

〈佐々木委員〉 新年度に入りPTA総会等で、統合シミュレーションにおける東小の方向性について説明した。

〈栗山委員〉 南小からは特になし。入学式で保護者に簡潔に説明をした。

〈奥田委員〉 旭小では、新入生保護者説明会で資料を配布し説明したが、意見はなかった。新年度に入り、PTA新役員にも資料配布し説明した。高学年の役員からは、中学校はどうなるのかという意見が出たが、それ以外は意見がなかった。どこの学校と統合するのか等、具体的に提示されれば、意見が出てくると考える。

〈來住委員〉 西中では、4月29日のPTA総会終了後、約50名の保護者に説明した。基本的には、統合に反対ということである。理由として、1年4学級、2・3年3学級ずつの学級数となっており、今のところ問題ないということである。質問として、通学距離が長くなる等のリスクに対して、教育委員会はどれだけリスクを削減してくれるのかという質問が出ているので、後で回答いただきたい。

生徒の意見として、生徒会9名に聞いてみた。統合反対が6名であり、残りの3名は統合してもよいということである。

〈笹川委員〉 南中では、4月8日の入学式で保護者に説明し、27日のPTA総会でも説明した。今後はアンケートをとる予定である。

- 〈中村委員〉 北町自治会内では、関心がない状況である。
- 〈綿貫委員〉 西町自治会では、役員改選等で引き継ぎを行ったが、特にないと聞いている。
- 〈谷野委員〉 東町自治会では、5月の役員会で説明したが、特に意見は出ていない。
- 〈多田委員〉 南町自治会では、3月24日に定期総会を行った。少子高齢化に伴う問題に関心が高い状況である。学校の統合については、専門家に任せてしっかりやっていただく考えであり、跡施設については関心があるようである。
- 〈児玉委員〉 旭小学校区内の自治会であるので、旭小としてはA案でもB案でもよいのではという意見が出ている。
- 〈土屋委員〉 東小の学校評議員としては、特にない。
- 〈酒井委員〉 南小の学校評議員としても、特にない。
- 〈鈴木委員〉 旭小の学校評議員としては特にないが、新しい年度になったので、会の運営について意見を述べたい。27年4月の統合時期については、絶対守らなければならないと思う。今までの協議会では、毎回ここまで進むべきという方向性の確認がなく、進展がない状況が続いている。今年度は、その都度決めたら、後戻りせずに早く次に進む方向でお願いしたい。
- 〈鶴岡委員〉 西中の学校評議員としては、特にない。
- 〈石原委員〉 西小の学校評議員としても、特にない。
- 〈大澤委員〉 北小の学校評議員会が6月にあるので、意見を聞いてみる。

(4) 協 議

議題(1) 千城台地区小学校の適正配置について

- 〈山崎議長〉 まず、事務局から説明をお願いします。
- 〈事務局〉 今後の協議に関係する資料と新しい資料を中心に説明する。(資料3～11)
- 資料3 (前回と同じ資料) の説明
現在の協議の位置、想定スケジュールについて確認
- 資料4の説明 シミュレーションA・Bの比較(25年推計速報値)
- ①シミュレーションA
- ・西小の児童数の増加を受けて、北小+西小の統合校における平成30年度3年生が48名となり2学級となった。
 - ・30年度の1年生については、昨年度の推計よりも増えたが、単学級のまま残った。ただし、翌年31年度の1年生は2学級となり、単学級にはならなかった。
 - ・東小単独で存続した場合、30年度の3年生が昨年度の推計よりも2名減ったため、以降、単学級が発生することになった。また、31年度についても1年生で単学級が発生する推計となった。
- ②シミュレーションB
- ・単学級は発生しない。ただし、北小、西小、南小の3校統合校で現行の教室数では、どの学校も教室が不足するという状況が発生してしまった。
 - ・「教室不足＝シミュレーションBは不可能」ということではないが、仮校舎方式としても「仮校舎自体にも教室数が足りないこと」や、児童が居ながらの改修施工をするにも「教室の余裕がないこと」などから、大変厳しい状況である。

○資料5：現行学区での児童数推計(25年推計速報値)の説明

25年度推計の速報値を入れている。

○資料6：学区外通学の児童の数(25年5月実数値)の説明

前回の協議会で栗山委員から提供をもとめられた資料である。

①学区外通学に入る児童

- ・教育委員会の定める学区外承認地域に基づき学区外通学をしている児童
- ・各家庭の個別事由により教育委員会の審査を受け、承認されて学区外通学をしている児童
- ・学区のない特別支援学級に通学している児童

②千城台地区の大きな特徴

- ・千城台地区以外の坂月小学区、下田地区を中心とする更科小学区からの学区外の児童が多い。
- ・千城台地区内では、北小学区から東小に通っている児童が20名、その逆の東小学区から北小に通っている児童が13名となっており、特に多い状況である。

*資料7～11については、前回同様の資料であるので簡潔に説明

〈山崎議長〉 資料について、事務局より説明があったが、質問はあるか。

〈佐々木委員〉 統合シミュレーションについて、前回資料よりも100名以上の大きな誤差が出ているようだが、どうしてなのか。

〈事務局〉 児童推計については、25年度の在籍数を基に、26年度以降は順次学年が上がった数値となっている。毎年入学してくる1年生については、5月1日現在の住民基本台帳を基に、20戸以上の開発を考慮し、入学率をかけて算出している。学区外通学については予測ができないことから、毎年誤差が出てしまうことをご理解いただきたい。東小の児童数について、昨年度と今年度の推計を比較すると、27年度は375人から356人、28年度は348人から325人、29年度は375人から344人、30年度は350人から319人となり、昨年度より各学年20～30名程度減っている。

〈栗山委員〉 年度毎ではその通りであるが、総数としては大きな誤差となっている。

〈大和久委員〉 西小の1年生が増えた理由として、近隣の坂月小学区に住宅が多く建ってきており、学区外通学が増えたことは理解できる。

〈栗山委員〉 千城台地区の中だけでも学区外通学が多くいるが、仮に統合した場合は、もとの指定の学校にもどるのか。

〈事務局〉 環境変化等を考慮し、現在、学区外で通学している学校に引き続き通うこととなる。

〈佐々木委員〉 このシミュレーションは、学区外通学も反映されているのか。

〈事務局〉 25年度は実数であり反映されている。26年度以降の推計については、25年度の学年が順次上がっていく学年はそのまま反映されているが、就学前の児童、つまり毎年入学する1年生は、5月1日現在の住民基本台帳を基に算出しており、学区外通学は反映されていない。

〈山崎議長〉 それでは、ここからは質問を含めて、協議に入る。ご意見がある方はお願いします。

〈栗山委員〉 本日のシミュレーションを見る前までは、考えていた案があった。それは、PTAや自治会、学校評議員の枠組みでそれぞれ集まって、A案かB案を検討してみてもどうかということである。

- 〈大和久委員〉 前から発言していたことだが、数合わせ的な統合ではなく、子どもたちのためにどうしたらよいのかという視点が大切と考える。ピンチをチャンスにかえていきたい。
1つ聞きたいことがある。北小の学区外通学では、その他の地域からは31名となっているが、特別支援学級の児童がほとんどであると思う。以前の協議会で「特別支援学級はその地域で面倒をみる方向に進んでいる」と聞いたが、現在はどうか。
- 〈事務局〉 特別支援学級については、千葉市では約6割以上の小学校に設置されている。現在、千城台地区では北小だけとなっており、周辺からも保護者の希望により通学している状況であるが、今後は「地域の子は地域で育てる」ことを基本に、広く遍く設置していく方向である。
- 〈山崎議長〉 本日の協議は、小学校のシミュレーションについて、A案かB案のどちらにしていくなかを検討することになっている。前回協議会でも持ち帰り、各団体に話し合ってきたと思うので、他の方からもご意見をお願いしたい。
- 〈石原委員〉 B案では、教室不足が発生した場合、増築・改築は行わないという説明があったが、何か案があるのか。
- 〈事務局〉 具体的な方法としては、次のような方法が考えられる。
①幸町地区の3つの小学校の統合で決定した二段階の統合を千城台地区でも行う。
例えば、北小と西小、南小の統合では、仮に統合場所を西小とした場合、第一段階として北小と西小が北小で統合し、その間に西小を改修する。第二段階として、北小と南小が改修した西小で統合する。
②教室不足が解消する30年度まで統合を延ばす。等
児童がいる中で改修工事を行う「居ながら施工」で進める方法もあるが、いずれの場合も、「引越の回数が増える」「統合の時期が遅れる」など子どもたちの負担が増えてしまう可能性がある。
また、学校適正配置実施方針では、「統合による学校施設・設備面については、機能的に新設校と同等程度の整備で大規模改修を基本として実施すること」としており、たいへん困難な選択肢といえる。
- 〈石原委員〉 議論をするのにギャップを感じてしまう。B案はだめだということではないか。
- 〈佐々木委員〉 東小としては、中学校のねじれを解消してほしいことからB案を推したい。教室不足については、改修工事の中で増築・改築も有り得るのではないか。あるいは、中学校を1つに統合し南中を統合場所とした場合、西中が空くので、小学校の統合場所として西小と西中を使うようにすれば解消できると考える。どちらにしても、東小としてはB案でまとまっている。先ほどの北小の発言は、団体としての意見なのか。
- 〈植田氏〉 特別支援学級の保護者の意見を報告したものである。
- 〈佐々木委員〉 協議会委員は、各団体の意見の総意をこの場で発言していくことと考えている。会長いかがか。
- 〈氏家会長〉 その通りである。
- 〈奥田委員〉 本日のシミュレーションは、前回よりも網掛け部分（課題）が増えているが、もっと柔軟性をもって進めてほしい。栗山委員から提案があったグループごとに集まって協議することに賛成である。A案・B案のメリット・デメリットを明確にして、デメリットを解決していくのがよいと考える。

- 〈來住委員〉 小学校の統合では学級数が大切であるのに、シミュレーションの信憑性がなく検討しにくいことが問題である。話は変わり、前回協議会でも質問したことだが、西中の保護者から質問が出ている。統合した場合、通学距離が長くなるなどリスクが生じることに對して、どのような要望を叶えているのか、先行地区の例を教えてください。
- 〈事務局〉 通学の安心・安全については、通学経路が変わり通学区域も広がることから、統合校安全指導員を概ね1年間配置している。3校統合の場合、2名配置となる。環境変化に伴う心のケアとしては、千葉市の全中学校に配置しているスクールカウンセラーを小学校の統合校にも概ね1年間1名配置している。また、きめ細かな指導を行うために、非常勤教員を3年間配置している。(31人以上の学級がある学年に1名配置)
- 〈來住委員〉 統合校安全指導員は2名ということか。
- 〈事務局〉 3校統合の場合は2名を配置する。それ以外に、ガードレール設置等の安全施設改善要望がある場合は、学事課を通して関係所管や警察署に要望している。新聞にも掲載されているが、文部科学省でも通学路の整備について力を入れているところである。
- 〈來住委員〉 ただ今の説明を持ち帰って報告する。
- 〈大澤委員〉 B案では3校統合の場合、教室不足が生じる。特別支援学級についてもっと考慮すべきであると思うが、ランチルームなどの余裕教室がないということは、子どもたちにとって、より良い教育環境といえない。そういう意味では、B案は無理であると思う。A案は、単学級は発生するが、あくまでも推計であり、学区外通学やアパート・マンション等の開発もあれば増えてくると思う。そのような誤差も許容範囲と考え、柔軟に對應するならば、A案の方がよいと考える。
- 〈大和久委員〉 誤差のばらつき、振れ幅を考え、検討していくことはよい。西中では、今年度は、鷹の台からの区域外通学が大変多かったこともあるなど、許容範囲と捉えて考えていくべきである。
- 〈谷野委員〉 B案では教室不足が生じる。旭小では、児童数が増えた時に校舎を一気に付け足したが、現在は空いている状況である。増築・改築はしないということなので、A案がよいと考える。
- 〈佐々木委員〉 先ほども提案したが、西中と西小を活用すれば解決できる。
- 〈谷野委員〉 A案と決まっても、実際にその案が通るかどうかわからない。
- 〈鈴木委員〉 どちらもよい案と考えるので、決められない。
- 〈谷野委員〉 1つに絞らなければならないのか。
- 〈鈴木委員〉 よい環境とするならば、単学級でクラス替えができないのはよくない。そういう意味では、個人的にはB案と考えている。
- 〈鶴岡委員〉 B案だと教室不足が生じることから、A案しかない。中学校を考えると、A案は2中のままでよいが、B案は1つに統合しなければならない。西中の報告では、統合反対の意見が多い。逆に、A案は単学級が生じ、クラス解体がないと問題が起きた時に解決が難しいが、いろいろな面から総合的に考えると、A案の方がよいと考える。
- 〈綿貫委員〉 議論は出つくしている。子どもたちの環境を考えると、各学年3学級ずつあった方がよい。中学校もできれば1つに統合してほしい。部活動では、部活数や部員数も少なく、勝てない状況である。通学距離については、以前は、加曽利中まで通っていたことを考えれば、問題ないと思う。歩くことも子どもたちにとって大切である。
- 〈鈴木委員〉 B案にしたら、増築・改築はしないと説明があったが、もっと専門家として教育委員会に考えてもらいたい。A案にするかB案にするかも含めて考えてもらいたい。

- 〈綿貫委員〉 この協議会で決めなくてはならないのか。
- 〈佐々木委員〉 この協議会で決めなくてはならない。
- 〈笹川委員〉 そこで、先ほどから提案されているグループに分かれて話し合ってみるのがよい。
- 〈綿貫委員〉 決まらない場合は、最終的に教育委員会に提案してもらえばよい。
- 〈佐々木委員〉 増築できないとあったが、要望書に盛り込んだ場合、改修等で学級を増やすこともできるのではないか。
- 〈事務局〉 学校適正配置実施方針では、増築・改築はしないことになっている。耐用年数等、既存校舎の状況により改修が耐えられない場合は改築を行うことはある。
- 〈栗山委員〉 B案については、教室不足になることがわかった時点で対策を考えていなかったのか。
- 〈石原委員〉 特に提案できなければ、みんなでより良い解決方法を考えていくしかない。
- 〈事務局〉 B案は教室不足が起こるが、新たな増築は行わない考えである。具体的な対策案としては、先ほど担当から説明した通りである。子どもたちのためになるのかという視点で実現できるかを考えた場合、増築・改築についてはハードルが高いと考える。
- 〈土屋委員〉 教育委員会としては、そこまで権限がないというのはわかるが、もう少し考えてほしい。要望通りにすべて実施できなくても、努力していただきたい。個人的には、無理して統合しなくてもよいと考えている。特区などに指定して、少人数学級にすることもよいと考える。
- 〈大和久委員〉 信頼関係がないといけないと思う。本音でグイグイときてほしい。教育委員会も一緒になって取り組んでほしい。例えば、B案で教室不足が生じた場合、特別支援学級を北小に残す方法も考えられないか。もっとコミュニケーションづくりができるとうよい。
- 〈山崎議長〉 協議終了の時間がきている。このままでは、A案かB案かは決まらない状況である。協議の中で、グループごとに話し合いたいという意見が出ていたがいかがか。
- 〈綿貫委員〉 3年間協議してきたと聞いている。グループで話し合っても、平行線にならないか。最終的には、教育委員会で決めてもらってはどうか。
- 〈一同〉 この協議会が決定の場である。
- 〈佐々木委員〉 平行線ではない。51通りのシミュレーションを2通りまで絞ってきた経緯がある。
- 〈山崎議長〉 3年間協議した中で、いろいろな面から検討し、シミュレーションを絞ってきている。グループごとに話し合うということではいかがか。
- 〈土屋委員〉 教育委員会に、B案の教室不足の解決方法を示してもらわないと検討できないのではないか。
- 〈石原委員〉 教育委員会には、シミュレーションの「シミュレーション」を示してもらえるとよい。具体的にA案とB案がそれぞれ決定した場合、どのようになるのかイメージを示してもらいたい。
- 〈山崎議長〉 他に資料は必要か。
- 〈一同〉 資料は十分である。
- 〈鈴木委員〉 絶対にこの案ということはない。組み合わせのシミュレーションが決まった後は統合場所をどこにするのか、協議に時間がかかると思う。子どもたちのために統合が必要であることが確認されているので、専門家である教育委員会で早めに進めてもらいたい。
- 〈山崎議長〉 B案の場合は、中学校の統合が関わってくるので、西中、南中とも持ち帰って話し合っていたきたい。
- 〈綿貫委員〉 A案でも中学校を1つに統合できるのか。

- 〈山崎議長〉 可能である。
- 〈多田委員〉 自治会内でも、中学校を先に統合したほうがよいという意見が出ている。小学校ではA案は単学級が発生するが、1つだけ発生しても小規模校といえるのか。
- 〈事務局〉 学校規模つまり学級数で分けており、千葉市では12～24学級を適正規模校、11学級以下を小規模校としている。
- 〈土屋委員〉 先生方の加配人数が関わってくるのではないかと。
- 〈事務局〉 その通りである。
- 〈多田委員〉 財政的な面も関わってくると思うが、教育委員会としてA案とB案について、もう少し方向づけをしてもらいたい。
- 〈佐々木委員〉 次回協議会で、組み合わせについて確認し合意するというで持ち帰る。

議題（2）次回の開催日時と場所について

- 〈山崎議長〉 協議（2）「次回開催日時・場所」に入る。事務局から説明をお願いする。
- 〈事務局〉 概ね2か月に1度のペースで、「金曜日の夜に開催する」ということで実施してきた。今年度も引き続き、「金曜日の夜に開催する」ということでよろしいか。
- 〈一同〉 異議なし（了承）
- 〈事務局〉 各団体で協議内容を持ち帰り、報告をする期間も必要になることから、今回は7月中旬、具体的には7月12日（金）18：30～でいかがか。
- 〈酒井委員〉 会長からもあったように9月までにまとめると確認しているので、もう少し早めに開催した方がよいのではないかと。
- 〈栗山委員〉 要望書については、例えば9月27日（金）に検討し、10月に入ってから提出しても間に合うのか。
- 〈事務局〉 間に合うと考える。
- 〈石原委員〉 「このペースで協議をしていて、27年4月の統合ができるのか」とみんなが心配していると思う。
- 〈佐々木委員〉 議事要旨（案）の委員確認では、修正が多いのか。
- 〈事務局〉 毎回、修正はいただいている。
- 〈石原委員〉 会長としてはどう考えているのか。
- 〈氏家会長〉 材料はそろっている。個人的な意見としては、土・日に集まって、一日かけて話し合っただけでもよいという考えであるが、それでは拙速すぎる。3年間かけて51通りのシミュレーションを2つまで絞ってきている。実行性を考慮し、決めていきたい。協議の原点を確認すると、現在も南小と北小は単学級化しており、これを解消することが喫緊の課題である。手続きをきちんと踏まえ、地域住民、保護者にきちんと説明できる決断をしていきたい。
- 〈事務局〉 再度確認するが、今回は7月12日（金）でよいか。
- 〈一同〉 異議なし（了承）

議題（3）その他

- 〈山崎議長〉 協議（3）「その他」であるが、委員の方々から何かあるか。
- 〈一同〉 特になし

(5) 連 絡

- ・次回協議会は7月12日（金）18：30～20：30、千城台公民館で開催する。
- ・本日の議事要旨（案）を作成し、委員の方々に郵送し確認していただく。期日までに回答がない場合は「修正なし」とさせていただきます。
また、委員の確認を経て修正・確定した議事要旨と、本日承認された委員名簿を教育委員会ホームページで公開する。（*一同：異議なし）
- ・本日の協議内容について、各団体の方々にもお知らせいただきたい。
- ・事務局に「説明・意見交換」の希望があれば連絡いただきたい。

(6) 会長挨拶（氏家会長）

協議会の趣旨から、役員や教育委員会が主導的になって決めるのではなく、いろいろな方々から意見を出し合って、決めていくという形式であるので、大変時間がかかるが、引き続き十分な協議を行って、協議会として合意していきたい。

教育委員会には、次回協議会までにそれぞれの案についてどのような方法が考えられるのか示していただきたい。

本日も真摯な協議に感謝する。